

施策 No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	久見木 憲一
2-2	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
実績値						41,278	40,483	39,692			
見込値											
					実績値						
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
生涯にわたって自ら学び、学びあっている。		①日頃学習活動をしている市民の割合	%			目標値	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1
						実績値	22.2	24.6	29.7		
		②公民館の年間利用者数	人			目標値	89,000	90,000	91,000	92,000	93,000
						実績値	78,052	75,205	63,261		
		③図書館・室の年間利用者数	人			目標値	28,100	28,600	29,100	29,600	30,100
	実績値					29,127	33,170	27,862			
						目標値					
						実績値					
						目標値					
						実績値					
成果指標設定の考え方	生涯にわたって自ら学んでもらう、学びあう成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」をアンケートで調査。また、各社会教育施設の利用者数の把握。										
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①日頃学習活動をしている市民の割合は、市民アンケートより求める。②公民館の年間利用者数は、各公民館の利用実績の合計より求める。③図書館・室の年間利用者数は、真壁図書館・岩瀬中央公民館図書室・大和中央公民館図書室の利用者の集計より求める。										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>日頃学習活動をしている市民の割合について、平成30年度は24.6%、令和元年度は29.7%と前年度比は5.1ポイント増加している。学習活動において公民館講座等の充実を図っており、各講座は3年程度継続して、それ以降は自主講座として引き続き活動し毎年新たな講座を開講している。受講者の現状としては高齢化が著しい状況もある。</p> <p>公民館の年間利用者数についても、高齢者の利用が多い状況であり、平成30年度は75,205人、令和元年度は63,261人と11,944人の減少状態にある。昨年度末より新型コロナウイルス感染症の流行により、公民館が臨時休館・休業となった影響も受けている。</p> <p>図書館・室の年間利用者数については、平成30年度は33,170人、令和元年度は27,862人と5,308人の減、若い世代の方は、一人で静かに活動したい方が増加しているためか、図書館利用者が多くなっていたが、こちらも新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館・休業となったことも要因と考えられる。</p>		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<p>①日頃学習活動をしている市民の割合について、目標値に対して4.6ポイント上回った。</p> <p>②公民館の年間利用者数については、目標値に対し、27,739人下回っている。</p> <p>③図書館・室の年間利用者数は、目標値に対し、平成30年度は4,570人増、令和元年度は1,238人下回った。</p> <p>日頃学習活動をしている市民の割合に対して公民館の年間利用者数の減少は、受講生の固定化・高齢化が著しい状態にあるため新たな若い世代の方などの利用が増加していない事と、新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館・休業となったことも要因と考えられる。</p>		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>○生涯学習・芸術文化活動の推進事業において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。</p> <p>・桜川市市民文化祭…実行委員会を中心とし、市民すべての方が参加資格を有し、日頃の生涯学習活動(公民館講座、自主講座)・文化振興活動(文化協会、伝統民俗芸能)の成果を発表する場の提供を図った。</p> <p>・公民館各種講座事業…市内全体で33講座・273回・918名の受講生があり、その他にも自主講座が実施されている。毎年新たな講座も開設して、たくさんの学習活動の場と公民館講座の充実を図った。</p> <p>・ブックスタート事業…令和元年度は幼児4カ月～6カ月183名に対し、読み聞かせ団体の中から50名の参加協力のもと、絵本を読んだり、お母さんの育児の悩み事などを聞いたり、赤ちゃんと遊んだり、また絵本をプレゼントする事業で図書に親しむ機会の充実を図った。</p> <p>・公民館読み聞かせ事業…各公民館で月1回絵本を読んだり、紙芝居を行ったり、幼児から小学生までの参加があり、子どもの親同士のコミュニケーションを図る場となった。</p> <p>・子ども伝統文化教室…次世代を担う子供たちに伝統文化を継承し豊かな人間性を養うことを目的とし4団体、79名が活動している。</p>	<p>・桜川市市民文化祭への参加者については、広く公募しているが、出品者、参加者の高齢化、固定化が進んでいる。今後、若年層の参加意欲が向上するような内容を取り入れ、若い世代の方にも興味関心のある講座を推進したり、夜の講座を増やすなどして、受講生を増やすなど工夫、改善が必要である。</p> <p>・ブックスタート事業、公民館読み聞かせ事業については、少子化に伴い大切な事業であるため、今後も引き続き継続していきたい。</p> <p>・各施設の管理運営に関しては、老朽化による修繕が必要となっており、雨漏りなど応急的に対応している状況で、今後の改修の方針を検討する必要がある。</p> <p>・桜川市文化協会助成事業、文化協会事業企画委員会主催の事業や、各事業の開催については、新型コロナウイルス感染症流行の影響により施設の臨時休館・休業となる場合も考えられるが、開催方法や学習内容、開催場所を考慮して、計画の変更などを検討する。3密を防ぎ開催あるいは変更、中止についても十分に検討する必要がある。</p>